



(財)三重こどもわかもの育成財団 機関誌

わかすぎ

2 0 0 9

第123号



平成21年2月発行

親子で話そう 今日の出来事 一日一回！



島ヶ原獅子神楽保存会



伊勢子ども能楽教室



若櫻太鼓

index

- 02 亀山市青少年育成市民会議からの報告
- 04 ・平成20年度新規事業「伝統芸能オンステージ、カブラ造形コンテスト、デジタルフォトコンテスト」
- ・平成21年度作品募集 中学生のメッセージ2009 (第31回「少年の主張三重県大会」)

- 05 「平成20年度青少年育成指導者のための研修会」報告
- 06 わかすぎ時評9
- 「生きる力」を発揮する子ども達
- 08 ・「青少年育成功労者等表彰・青少年育成国民会議会長表彰」
- ・家庭の日「絵画・ポスター展」
- ・編集後記

編集発行

(財)三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054 三重県松阪市立野町1291
中部台運動公園内

TEL : 0598-22-4911 FAX : 0598-23-7792
URL : <http://www.mie-cc.or.jp>

亀山市青少年育成市民会議からの報告

亀山市青少年育成市民会議 事務局長 米川宗太郎

■彦根市青少年育成市民会議を迎えて

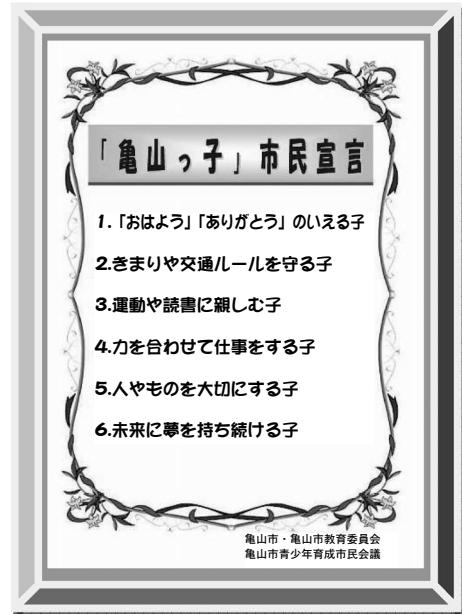
平成20年11月21日、彦根市青少年育成市民会議北川公徹会長はじめ19名の視察団一行を『あいあい』研修室にてお迎えしました。

まず自己紹介から始まりましたが、彦根市も亀山市も同じ城下町ということもあって、よく似た地区名（城西や城東など）が在り親しみを感じました。

彦根市は青少年育成市民会議が学校区単位で構成しており、研修参加者も学校区の会長がほとんどで、亀山市でも地区会議はコミュニティ単位で学校区単位とよく似ています。事前の打合せでも校区における特色ある取り組みの紹介をお願いしたいという申し入れがあり、西小学校の子ども安全『愛の運動』と川崎小学校『川崎子どもフェスティバル』の二つを紹介しました。彦根市でも同じ様な事業を行っているようですが、違いについて、細かく質問されたり活発な意見交換会になりました。

今、大人が市内の子どもにどのように育ってほしいか、また、理想とする「亀山市の子ども像」の実現に向けて、大人が何を行うべきかについて、この『亀山っ子』市民宣言をもとに取り組んでいるところであります。初年度としては、市民に広くPRするため宣言文と意思を書いたチラシを全戸配布し、宣言文をパネルにして幼稚園・保育園・小中学校・公共施設・25のコミュニティセンター・226の自治会に掲げていただき、青少年育成市民会議の4部会（広報部会・育成部会・家庭部会・非行防止部会）も宣言文を取り入れた事業をしています。

「21年度以降市民レベルで共通の目標を抱きながら市民総ぐるみで、どう進めていこうかと、市民会議運営委員を中心に・教委・市職員を含めた推進委員会を作り現在検討中です。」ということの説明しました。今まで亀山市は、静岡県富士市・岐阜県富加町、川辺町など県外からも視察を受けました。視察にみえる方はそれぞれの地域の長であり、なかなか組織の構成が違い、地域の事情が違うので、違う所ばかり探して出来ない理由探しの様な意見交換会が多かった印象がありましたが、建設的な話し合いを心がけました。



■愛の運動



『愛の運動』は、「地域の子どもは地域で守り育てる」を合い言葉に、大人が子どもの手本となり、地域社会のモラルの向上に努めるとともに、地域住民が一丸となり、安全・安心な地域づくりに取り組んでいる活動です。

また、亀山市青少年育成市民会議より、活動に取り組んでいただける団体やグループに対し、人数分の『愛の運動』のロゴ入りのジャンパー、帽子、笛と1団体につき6,000円の助成金を支給しています。現在33のグループ、約1,500人の人たちが活動しています。

西小校区での取り組みの1つは、「西小SOS」という名称で、子どもたちを不審者から守るといふ地域のパトロールと、小学校行事への招待参加、暑中見舞い・年賀状による交流などを行っています。具体的には小学生が、いつもボランティアで見回りをしていただいている方々に、そのお礼の意味を含めた暑中見舞や年賀状を出して、返ってきた返事を小学校の廊下などに掲示し、話題としています。

■川崎子どもフェスティバル（夏祭り）

平成16年度から始まった「子どもの居場所づくり」。そして、平成17年度から小学生を対象に有志で始めた夏の「夕涼み会」。今年は「中学生も一緒にやろうよ」ということになり、より多くのみんなが交流出来る場と、「世代を超えた心の交流“幼小学生から中学生そして大人へ”」『川崎子どもフェスティバル』と称し、子どもと大人を合わせて500名ほどの参加者（内70名ほどが中学生）をえて開催をしました。

特徴は、1. 学習、ふれあい、遊びがある。2. 運営側の主体は、小中学生を持つ保護者の年齢層で、中学生が運営に参加。3. 地域組織全てが参画。4. 小中学校側の協力。5. 参加費を徴収するという。の以上5点です。

準備は、3月下旬から役員会や実行委員会、それぞれの担当部会を何回となく実施し、中学校で生徒との打合せ、事前のシミュレーションや関係機関との調整打合せを経て平成20年8月23日（土）に無事開催することが出来ました。

地域の年配者からは、「こんなに若い人が頑張っているのなら私たちは何でも手伝った」という言葉をいただきました。中学生は「自分達が小学校の時に経験した楽しい思い出を今の小学生の為に」という思いもあったのではないのでしょうか。

読み聞かせ、老人会とカローリング、中学生が中心にゲームやかき氷、創作工作、伝統芸能、茶道、先生方も“にぎった”おにぎりや流しそうめん、キャンプファイヤーと盛り沢山の内容を楽しみました。

反省会では、「もうちょっと余裕のある内容で、自分の担当以外のものを楽しみたい」、「中学生がいなかったら出来なかったね」「子どもも大人も楽しめた」「大変だったけど楽しんだ、よかった」「ふだんと違う子どもの姿が見れた」「来年もやろう」との意見が多く、「良くない」という意見はひとつもなく締めくくることができました。



▲老人会とのカローリング



▲東員町「朗読ひばりの会」による読み聞かせ

【財団より】 本稿中の「川崎子どもフェスティバル」は、当財団平成20年度「地域活動支援事業」の助成対象事業でもあり、届けられた報告書には「こんな楽しそうな子どもの姿は見たことがない」「大人や小中学生、保護者の笑顔が目には焼きついています」などの感想や「子ども中心に、特に中高校生をもっと前面に出した形で、小学生を育てていく事を目的のひとつにもしたい」などの意見が寄せられています。

平成20年度 新規事業

■「みえ青少年伝統芸能オンステージ」

県内で地域文化の伝承に取り組んでいる人達を応援したいとの主旨で始めた企画です。

開催日：平成20年10月18日（土）

場 所：三重中京大学 511教室（松阪市）

出演者は、若櫻太鼓（木曽岬町）、津・高虎太鼓（津市）、松阪しゅんがい音頭と踊り保存会（松阪市）、伊勢子ども能楽教室（伊勢市）、島ヶ原獅子神楽保存会（伊賀市）の5団体で、所属する中・高校生が技を披露してくれました。

今回は、平成21年11月1日（日）松阪コミュニティ文化センターにて開催いたします。



▲伊勢子ども能楽教室 能管

■「みえ青少年カブラ造形コンテスト」

カブラは南フランスの松の木で、大人の手のひらにのるほどの大きさで細長い白木の板を使用した同じサイズのシンプルな軽い板です。この板の粘着性の強い特性を活かして造形活動を展開する主旨の企画です。今年の課題は「夢のお城」として募集したところ、中・高校生から7チーム（参加者23名）の応募がありました。



▲最優秀賞「ハウルの動かない城」

表彰式：平成20年11月23日（日）

場 所：みえこどもの城 プレイルーム

・最優秀賞：タイトル「ハウルの動かない城」

・チーム：マルクル 代表 小林舞子さん（松阪市在住・中学生）

■「みえ青少年デジタルフォトコンテスト」

「友だち・なかま」をテーマに写真を募集し、県内の中・高校生、大学生から38点の作品が集まりました。

表彰式：平成21年1月10日（土）

場 所：みえこどもの城 舞台スペース

最優秀賞者は、ローアングルから撮影したもので、一人ひとりのVサインが5人集まることで星を形づくるというアイデアの作品が選ばれました。



▲最優秀賞「トモダチ」

・最優秀賞：タイトル「トモダチ」 大竹亮宣さん（津市在住・大学生）

・優 秀 賞：タイトル「ジャンプ！」 鈴木ひかりさん（松阪市在住・中学生）

・優 秀 賞：タイトル「ありがとう」 稲葉彩佳さん（多気町在住・大学生）

平成21年度【作品募集】

中学生のメッセージ2009（第31回「少年の主張三重県大会」）

中学生のメッセージ2009（第31回「少年の主張三重県大会」）は、中学生が日ごろ感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。中学生の皆さんからの応募をお待ちしています。

◆応募資格 県内の中学校(特別支援学校中学部を含む)の生徒及びそれに相応する学生または年齢にある方。

◆日 時 平成21年8月22日（土） 13：00～16：30（予定）

◆会 場 津リージョンプラザ お城ホール 津市西丸之内23番1号

◆提出期限 平成21年6月12日（金）

※応募方法など詳細については、当財団ホームページ（<http://www.mie-cc.or.jp/ikuseihp/>）を参照してください。作品応募者全員に参加賞を贈呈します。当事業に対して協賛していただける企業・団体を募集しています。

「平成20年度青少年育成指導者のための研修会」報告

平成21年1月24日（土）三重県総合文化センターにおいて、「平成20年度青少年育成指導者のための研修会」が開催されました。

県内各地から市町民会議関係者、青少年育成アドバイザー、県・市町行政関係者52名の参加者が集い、三重トヨタ自動車株式会社代表取締役会長（当財団理事長）竹林武一さんの基調講演と県内の青少年育成市町民会議連絡協議会3団体による「平成20年度地域活動者研修会」の実践事例発表を行いました。

..... 基調講演

■テーマ 燃える青春 心にショックと感動を！！

■講師 三重トヨタ自動車株式会社代表取締役会長（当財団理事長）竹林武一さん

講演では、はじめに「すばらしい人間の条件」として、魅力あるリーダーシップ・パーソナリティについて話があり、次に「皆さんに望む」こととして「エンピツ型人間（中に芯が1本入って、まわりに『キ』を使う）」であってほしいと、また、昨年から今年にかけて国の内外とも困難な時代に「何も咲かない寒い日は 下へ下への根をおろせ」などを話されました。終わりに、「出会いを大切に」し、「力があるから重い荷物を背負うんじゃない 重い荷物を背負うから力ができるんです」と【竹林語録 40】を示しながら約90分間、熱く語られました。



▲竹林武一さん

事後アンケートの感想では、「企業のトップの方の話が聞けて大変よかった」「聞く人をやる気にさせる内容であった」「心をどう保つのかを教えていただいた」「元気をいただきました」「（竹林）語録は大変参考になることが多い。一つでも実行していきたい」などの感想が寄せられました。

※【竹林語録 40】を必要の方は、事務局までご連絡ください。

..... 「平成20年度地域活動者研修会」の実践事例発表

■紀南地区青少年育成市町民会議連絡協議会

テーマ 「子どもたちの想いを聞こう」

発表者 鈴木 美文さん 紀南地区青少年育成市町民会議連絡協議会 副会長
熊野市青少年育成市民会議 会長

■南勢志摩地区青少年育成市町民会議連絡協議会

テーマ 「青少年の健やかな成長を願う」

発表者 谷水 総志さん 南勢志摩地区青少年育成市町民会議連絡協議会 副会長
志摩市青少年育成市民会議 会長

■北勢地区青少年育成市町民会議連絡協議会

テーマ 「地域の子どもたちをどう守るか」

発表者 赤木 昭一さん 東員町青少年育成町民会議 会長

□「地域活動者研修会」は、県内6つの連絡協議会（津の場合は、市民会議）で実施しています。以前から、今後の参考にするため、この「地域活動者研修会」の実践事例発表を、財団でまとめて実施して欲しいとの要望がありました。そのため、平成19年度は、3連絡協議会（松阪・伊賀・紀北）が発表して、平成20年度は上記の3連絡協議会が発表しました。事後アンケートの感想では、「各地域の様々な取り組み活動を直に聞けて参考になる」「北勢地区での青少年の主張（では）出場者を学校に頼まずに集めていること（や）チラシ・ポスターの作成（などの）努力に敬服しました」などの意見が寄せられました。

※当日の資料の必要な場合は、事務局までご連絡ください。



▲事例発表の様子

「生きる力」を発揮する子ども達



▲こどもたちの発表

12月14日(日)、三重県の川越町教育委員会生涯学習課と川越町青少年育成町民会議が企画した『小中学生が描くこれからの川越町』の活動に同行しました。小学3年生～中学1年生の15名が馴染みの場所「川越電力館テラ46」と「マックスバリュ サンリバー店」で感じた事、考えた事を中央公民館へ戻って各自が付箋に書きます。使用枚数は自由で、考えて書く子、閃きを書く子など様々。そして、1人ひ

とりが自分の考えを発表しました。仲間の考えを聴く機会となり、賛同の声や頷く姿がありました。その後、筆者が講演というカタチで、地域の方たちへ子どもの思いを伝えました。

後日、子ども達と過ごした5時間の様子を振り返り、担当の教育委員会生涯学習課主監渡辺信照さんと川越町青少年育成町民会議会長の寺本茂一さんからお話を伺いました。

具体的に自分の生活と関連付けて仲間と確認し合う経験

Q：自分の考えをキチンと言葉で伝えてくれる、活発な子達ですね。年長者が何かと気配りをしていました。

渡辺：今回の企画は、家庭教育環境部員の駒田さんが中心になって募集して集まった子どもです。学校も学年もバラバラですが、何かにチャレンジすることに興味のある子なのね。駒田さんはキャンプやカヌーをしたり、もち米の田植えから始めて収穫・餅つきって風に、体験学習的なことを実践しているので、今回は何をやるのだろうかってことで集まってきたと思いますね。

Q：駒田さんの企画は野外活動とか、身体を動かす活動が中心ですか。

渡辺：基本的にはそうですね。町民会議としては、駒田さんは子ども達の体験学習について考えてくれるありがたい存在です。このような活動へもっと支援できるといいなと思っています。彼が作ったんですよ【チャレンジ】というクラブを。当初は1年生から6年生だったけど希望者が多くなって今は、3年生から中学生を対象にして40人位。それに先輩達。駒田さんは子ども達がすごく信頼しているリーダーで、じゃれてる感じもあるのね。でも、彼が怒ると怖いけど、何故怒られるかを納得できる。

Q：【チャレンジ】の子ども達ですか。皆チャレンジ精神旺盛ですね。「川越電力館テラ46」では、子どもから「静電気は人間には大丈夫だよ、静電気のパワーをあげてみよう」という提案で、全員が輪になって手をつなぎ、静電気が全員の身体を通過する瞬間は、まさしく一体感を手にした瞬間でした。私は初めてで怖かったのですが、子ども達は学年も学校も違うけど、今までに電力館へ来て学んだ事に差異がありながらも、以前に知った興味深い事を新顔のおばさんも入れて体験しよう！という気持、そういう潜在的な意思を感じました。仲間の関係を大切にすることが判りました。昼食後、子どもが2つのグループに分かれて活動のまとめを書いた付箋を見ると、頭に浮かんだことを書く時に「川越電力館テラ46」で貰ったパンフレットを参考にしながら自分の意見をまとめる子が数人いました。ここへお年寄りが来ても楽しめることができれば良い等、彼らなりの考えをキチンと書いているように思います。それに、マックスバリュでは、子どもが昼食・おやつ・飲み物代として千円預かって買い物した時には個性が出ていました。

渡辺：買い物のプランは本当に良い事を提案していただいたと思った。普通は、参加者へ同じ弁当を配りますけどね。



渡辺信照さん

Q : 買い物する姿には、15人15通りの昼食への思いが出ましたね。「僕がこのおやつを買うから分けてあげる」とか。「野菜も食べなきゃ」「デザートは何にしよう」とブツブツ言いながら。

渡辺 : 何か物を買う事はあっても、自分が決められた金額の中で目的に添って自由に買うって言うのは、経験あるのかなあ…。欲しいものをスーパーのレジカゴに入れるだけで、親がお金を払うのが一般的かもね。

Q : お店で自由に選んで大人の買い物でも結構迷いますけどね。レジカゴへ入れる物をメモして計算したり…「2円残った」なんて子もいました。

寺本 : 二人おりましたよ。いくら残ってとか、ぴったり買うことに工夫したり、生き生きと楽しんでたね。一生懸命計算しとった。自分がお金を貰って責任をもって使えるって、あれもいい体験じゃなかったかな。

Q : 買い物の前にスーパーの職員通用口から入れてもらって、普段見ることのできない裏方の仕事を見学しました。

渡辺 : あれね、窓越しにしか見られなかったのは、検便とか前もってしないと、入れてもらえないのね。

Q : なる程。子どもは付箋に「えいせいかんりがいい」って書いてましたね。そして、「学校でもつめ(爪)切りてんけん(点検)をしたらいい」って。例えば、お母さんがもしかしたらあそこで働いていたりする場合も。

寺本 : ありうるでしょうね。個人で入れる場所ではないですし、裏方の姿を見ることは貴重な体験でした。

Q : 生ゴミ処理の説明から考えたのでしょうか。「エコにいい」って書いていました。川越町については「自分たちが住んでいる家、おじいさん、おばあさんになっても住みたい町です。」「お年寄りや小さい子が遊べる所を作ってほしい。」と書く子ども達の存在が川越町の未来を拓いていくのでしょうかね。

渡辺 : この文章、すごく嬉しかったです。こっちの子も書いてなかったかな、あッこれとこれ、これも。我々はこの企画をした時に色々と議論があって、出た意見をどう活かすということで、なかなかその辺が…。子ども達が解散してから、中西先生の講演の中で今回の活動の紹介をしてくれました。地域の人たち(67名)の中に、町内の各小中学校の校長や教頭が来ていました。



▲裏方の仕事拝見



▲寺本会長

■川越町の子どもたちが考える川越町も視野に入れて

Q : 地域と学校と行政が「町民を育てる活動」について、子どもの話題を共有できるって素晴らしいですね。今回、単に午前中に2箇所へ行った経験はワンポイントだと思うんですね。子どもにとっては、それで消えてしまうんじゃなくて、そのワンポイントが子どもへ何を意味するのかっていうことを、我々は考えていきたいですね。

彼等が9時半集合で3時頃まであれだけのスケジュールをこなすっていうのは、きっと疲労困憊だったでしょう。でも、全員が清々した顔で挨拶をして帰る姿が印象的でした。

渡辺 : そうですね、せっかくこれを企画して子ども達のことを大勢の方に聞いていただいて、で、これっきりに言うのはね。逆に言うとこれをどう展開したらいいかな、ということです。同じ企画を毎年子どもを変えて体験をするっていうのも一つかもしれない。我々の仕事は子どもの意見をどこへ



▲今から昼食の買い物

どういうふうに反映させるのかっていうことだと思うんです。それは地域・学校・行政へどういう風に入っていくのか、そういう議論もしないと。

校長、教育長、行政も来ていたので、会場から意見を聞く時間があれば良かったね。子ども達の意見を受けて大人たちがパネルディスカッションのようなことを計画するのも良いですね。

子ども達の意見の後で、川越町の将来、子ども達をどう育てるかっていうことの議論があっても良かったかもしれません。

我々の中で反省会をまだしていないけど、これをどう活かすのかを検討したいです。後は、来ていただいたお父さんお母さん、大人達が何を感じたのかっていうことも大切ですね。あわただしくて、時間に制約があって忙しかったです。

Q : そうですね。今回は子ども達から、例えば、買うつもりでレジかごに入れても途中で気持ちが変わり、適当に商品を棚に置いてあったのに気付いた子どもが「元にあった所へ返した方がいいのに…」とつぶやくのを耳にしました。彼らから、生活する社会への関心や客観的な考え方を聞くことができて感謝します。ありがとうございました。(文責：中西智子)

青少年育成功労者等表彰・青少年育成国民会議会長表彰

財団法人三重こどもわかもの育成財団理事長表彰(敬称略)

平成20年11月14日(金)に三重県総合文化センターで開催された「三重県青少年健全育成・非行防止関係者研修会」において、長年、児童・青少年の健全育成にご尽力いただいている個人9名、団体1団体が表彰されました。

〈個人の部〉 岡崎 和光(桑名市) 渡辺 しげ子(桑名市) 山本 保郎(桑名市)
江上 元一(桑名市) 佐藤 正幸(桑名市) 服部 邦夫(いなべ市)
赤木 昭一(東員町) 植村 文雄(紀北町) 宮原 良雄(紀北町)

〈団体の部〉 三木里地区青少年育成町民会議(尾鷲市)

社団法人青少年育成国民会議会長表彰(敬称略)

平成20年11月1日付けで社団法人青少年育成国民会議会長表彰において、青少年育成功労者等の表彰が行われました。三重県からは1名受賞されました。

〈青少年指導者の部〉 伊藤 公一(東員町)



平成20年度 家庭の日「絵画・ポスター展」【展示期間／2月1日(日)～3月1日(日) 場所／みえこどもの城】

理事長賞



タイトル「魚を家族で食べたよ」
松阪市立中川小学校2年
大西 伶奈(おおにしれな)さん

松阪市青少年育成市民会議嬉野支部 推薦作品

特別賞



タイトル「にじ色の魚」
亀山市立井田川幼稚園
清水 陽奈(しみず はるな)さん

亀山市青少年育成市民会議 推薦作品

編集後記

義務教育の目的の一つに、子どもの社会的自立の基礎を培うことがあります。いわゆる「生きる力」という理念ですね。学校教育の目的の一つですが、地域活動においても、学校・家庭との連携で将来を見通した長期的な展望が必要です。未来を拓く子ども達には、自分も仲間も「私の言葉」で伝え、他者の意見へ耳を傾けることが社会的自立のスタートであるように思いました。

『わかすぎ』編集長 中西 智子